

浜松市東区俳句の里づくり事業

第十二回

十湖賞

俳句大会
入選句集

人と人心ふれあう未来へ東区

令和2年2月発行

<発行元> 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20番3号

TEL 053-424-0115

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

■主催/浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市

■後援/静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、FM Harol、浜松ケーブルテレビ株式会社

「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸時代末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に務めた篤志家です。生涯に詠んだ句は七千句とも言われ、全国各地に多くの門人がいました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉からの蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる春夏秋冬・四季折々の自然、その中ででの生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、出の「街・浜松」を象徴した、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えるとともに、郷を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催しています。

元来、東区内には多くの句碑群があり、多くの俳人も輩出していることから、「俳」の句里」としての側面を垣間見ることができます。

浜松市東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜」 蕨区俳句の里づくり事業」を行っています。

第十二回「十湖賞」俳句大会入選句集

令和二年二月十一日（火・祝）

於 浜松市総合産業展示館 北館1号ホール



目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	6
県教育長賞	6
市教育長賞	6
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10～13

選者

笹瀬節子氏

（「みづうみ」主宰）

高柳克弘氏

（「鷹」編集長）

坪井孝之氏

（「海坂」同人会長）

村松二本氏

（「椎」次期主宰）

※五十音順

第十二回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
623	1,224	1,396	2,617	2,183	3,773	2,090	3,593	6,292	11,207	市内	617
										県内 <small>（浜松市外）</small>	168
										県外	439
										合計	1,224

※ 募集期間：令和元年7月1日（月）～令和元年9月30日（月）

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島知次

今年度で十二回目の開催を迎えた十湖賞俳句大会は全体で6,292人から11,207句もの投句をいただきました。

「平成」から「令和」へと時代が切り替わる中、変わらぬ日常生活での思いや身近な自然の中での発見と感動を俳句として詠まれたのではないかと思えます。大会に寄せられた句はいずれも素晴らしい作品ですが、選者の皆様にご協力を仰ぎ、入選作品を選考していただきました。入選句をご覧いただき、詠まれた方の思いや十七音から広がる「景」をお楽しみください。

終わりに、入選された皆様に、心よりお祝い申し上げますとともに、入選句を選考いただきました選者の皆様、並びに事業推進に係りご尽力いただきました関係者の皆様へ厚くお礼を申し上げます。皆様方の今後ますますのご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

浜松市東区長 鈴木知子

明治から大正時代に活躍した遠州地方を代表する俳人「松島十湖翁」の教えにより、ここ浜松市東区は市内でも特に俳句が盛んな地域です。そこで平成十九年度から「俳句の里づくり事業」として、十湖翁の名前を冠した「十湖賞俳句大会」の開催や若年層への俳句普及を目的とした「小中高校俳句講座」などを実施してまいりました。

この「十湖賞俳句大会」も今回で十二回目の開催となり、市内だけでなく全国から多くの投句をいただいております。令和という新たな時代を迎え、今後も地域に根付いた大切な財産として俳句を盛り上げ、更なる普及を図ることで郷土の誇りや愛する心を育んでまいります。

結びにあたり、大会にご応募いただいた皆様、選考していただきました選者の皆様、そして本年度の事業に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。

十湖大賞・十湖賞へ高校生の部

ウミガメを見ている僕も海の中

浜松修学舎高校三年 吉本 侑平

評：海の中の「ウミガメ」を描いた句はあまり見かけない。しかも、作者まで海中だ。自然の中に飛び込んで詠んでいるところがおもしろい。まるで海亀と作者が対等であるかのように表現されている。人間も自然の一部であることを改めて教えてくれる。(村松二木)

十湖賞

へ一般の部

噴水は丈の限界超えんとす

東京都足立区 木幡 忠文

評：現実的には、噴水は機械によって動く装置にすぎないから、限界を超えることなどありえないのだ。「限界超えんとす」と見たのは、作者自身にその志があるから。噴水を通して自身の人生哲学を表明した一句。(高柳克弘)

へ中学生の部

書初めを風呂の鏡で書いた朝

与進中学校三年 澤口 志堂

評：作者は正月に朝風呂に入った。風呂場の曇り鏡を見て、これからする書初の文字を書いてみた。子ども時代には、湯気で曇った窓ガラスなどに絵や文字を書いたものだ。書「を初」のように表現するのもおもしろい。(坪井孝之)

へ小学生の部

恐竜博士対虫博士休暇明

中瀬小学校二年 室内 和輝

評：「休暇明」は二期のこと。夏休みの自由研究を持ち寄って発表。恐竜博士、虫博士になって。愉快的発表風景が想像、連想はつきない。教室内の夫々の様子が和やかに伝わってくる。漢字で構成。調べも申し分がない。(笹瀬節子)

東区長賞

〈一般の部〉

風音の映りこむまで墓洗ふ

浜松市南区 尾内 以太

評：作者は、近親者の初盆の墓参をしたのであろう。亡くなった人を偲んで墓石を一心に洗う。いつの間にか、吹く風が表面に映り込んでくるほどに光っている。風音が映るといふ措辞が、作者の気持ちを表現している。(坪井孝之)

県教育長賞

〈高校生の部〉

夕闇や人が恋しと青葉木菟

浜松学芸高校一年 中森 結香

評：青葉になる五月頃、南から渡ってくる「青葉木菟」は、フクロウ科の夏鳥。夜になると「ほーほー」と二声で鳴く。その声は物悲しい。作者は「人が恋し」と「鳴いていると擬人化、大人の既存の作品へと一歩も二歩も近づいている。(笹瀬節子)

市教育長賞

〈中学生の部〉

正月のおれの仕事は餅を食う

西部中学校一年 池ヶ谷 亮太

評：「餅を食う」のが「仕事」とはよく言ったものだ。このように詠めるのは平和な時代であるからこそ。なんともめでたい句ではないか。そして、俳句にはこういった飾らない表現がびったり合う。日本の未来は明るい。そう思わせてくれる太々とした俳句である。(村松一木)

〈小学生の部〉

はすの花こいにつられて動きだす

中郡小学校五年 大橋 芽生

評：鯉が動く、水も動く。水の動きにつられて、かたわらの蓮の花も動く。ささやかなことだが、世界とはたしかにこういうものだという、真理をとらえた迫力がある。この作者は俳句の「写生」という理念をよく理解している。(高柳克弘)

特選

〈一般の部〉

小鳥来る千古の塔を目指しくる

浜松市東区 金子 治夫

野の色の動き初めて草の餅

愛知県豊田市 山口 純子

〈高校生の部〉

炎天下笛の合図でキックオフ

浜名高校二年 村越 大輔

秋の空色濃く深く鳥は立つ

浜松東高校一年 富田 大誠

〈中学生の部〉

夏の風ホースの水を虹に変え

丸塚中学校三年 岡安 泰河

さくらちりははのみそしるあたたかい

西遠女子学園中学校三年 名倉 桜那

〈小学生の部〉

さおしなるはげか地球か大物か

和田小学校六年 兼子 夕奈

とかげの子つらかつたらうしっぱない

中郡小学校五年 小杉 陸斗

佳作

△一般の部▽

縄張のなき大空へ鷹渡る

磐田市 杉浦 鈴子

河童忌の浴槽に座す深夜二時

福島県いわき市 堀卓

立冬や働く髪をきつく結ぶ

香川県高松市 岩田 賀代

胡瓜もみ指輪に慣れし薬指

岡山県岡山市 信安 淳子

大天竜眼下に流れ門火焚く

浜松市浜北区 鈴木 柚

ちぬ掛かり猫の尻尾の立ち上がる

湖西市 二松 祥子

△中学生の部▽

どんどんどんぴかつと光る大花火

丸塚中学校二年 南里 茉菜

しみこんだ夏の思い出黒い肌

与進中学校三年 山下 彩瑛

雨うけて力あふれる夏の山

丸塚中学校三年 岡本 拓海

セスナから目映ゆい古墳夏の旅

静大付属浜松中学校二年 高橋 有珠

兜虫懐かしむ父はしゃぐ僕

笠井中学校三年 小木 麻椰

冬休み期間限定猫になる

与進中学校二年 安田 茜

△高校生の部▽

向日葵の畑を走る風の音

浜松修学舎高校三年 大石 暖子

しおかぜにふかれるしろいカーディガン

浜松修学舎高校二年 栗田 愛海

山麓に纏わりつきし霧時雨

浜松修学舎高校三年 小澤 和寿

ねころんだ私とつくしとなりあう

西遠女子学園高校一年 海野 萌花

カシオペア三秒みつめてペダル踏む

浜北西高校一年 平松 みなみ

人でなく過去問見つめ終わる夏

天竜高校春野校舎三年 椎木 妙子

△小学生の部▽

追い付たいやいやまだと母背伸び

豊居小学校六年 尾形 喜法

ああ骨がやはりきらいだ土用の日

蒲小学校六年 上村 咲喜

せの高い夏のおひさま仁王立ち

豊西小学校五年 小栗 雅博

すいか割りはずしたときの手の痛さ

浜名小学校六年 橋爪 涼弥

初めてだざらざらきゆうり持ったこと

有玉小学校六年 松本 汰士

妹はかいじゅうみたい水遊び

青城小学校三年 佐野 雄一友

奨励賞

△一般の部▽

汽水湖に帰燕の群るる夕べかな

浜松市中区

田中 久男

生き方を生涯変えず柿の花

長崎県諫早市

松野 清子

新米をこぼさじと研ぐ夜明けかな

浜松市西区

宮本 美紀子

ところてん押して素直になりにつけり

掛川市

中山 恵子

介護の夜父の寝息と虫の声

磐田市

鈴木 知子

大地踏みヒップホップの若葉かな

浜松市北区

松井 美佳

春火鉢三月十一日の月

神奈川県藤沢市

河本 朋広

手触りで決めたる湯吞光悦忌

千葉県浦安市

茂原 朱美

木苺のジャム青春を駆け抜ける

浜松市中区

梅岡 道江

クッションは胸に抱くもの小鳥来る

裾野市

佐藤 モト子

△高校生の部▽

集大成手に汗握る新人戦

浜北西高校一年

政本 修典

やわらかに蚊取線香纏う祖母

浜北西高校二年

三好 美沙希

静寂の夜中に響く鹿の声

天竜高校春野校舎三年

佐藤 祐奈

夏終わり尖り続ける僕とペン

浜北西高校三年

河合 璃空

朝の池一輪だけの蓮の花

浜松修学舎高校三年

神村 太一

もやがるココアの熱さと冬の雲

浜松東高校一年

内山 亜美

前歩く君のセーター手を伸ばす

浜北西高校二年

岩崎 加奈

担任の声大きいせみ負ける

西遠女子学園高校二年

太田 純鈴

腹見せて神鳴る空に挑む猫

西遠女子学園高校一年

夏目 悠希

蝉の声気付く間もない受験生

浜松東高校一年

村松 陸斗

月光という大道具野外劇

愛知県東海市

斉藤 浩美

ここからは修験の道や柿熟るる

愛媛県西条市

渡辺 国夫

一頻り鳴いて帰燕となりゆけり

浜松市西区

村松 きく糸

盤上の駒は動かず虫時雨

浜松市西区

成瀬 喜義

原爆忌ビルみな青き窓を持つ

東京都板橋区

渡邊 大智

波がしら弘法麦の種とばす

浜松市浜北区

田村 寿子

出目金の鉢の外にも目のふたつ

浜松市浜北区

川島 靖子

電柱を抱ふる猿の冬日かな

浜松市天竜区

鈴木 福子

鯨釣りの女ひたすら無口なり

東京都足立区

權守 いくを

居心地の良き君とみて遠花火

浜松市北区

宮本 葉子

秋涼し頑張る君の背中おす

浜北西高校一年

小杉 夏海

凧上がる空に響かす喇叭の音

天竜高校春野校舎一年

村田 真唯子

思いやり友と分け合う扇風機

天竜高校春野校舎三年

片桐 璃乃

零余子飯香り漂う炊飯器

浜松修学舎高校二年

鈴木 龍

朝の音ふとんの中で聞かぬふり

浜名高校二年

塚田 さくら

ありがとう敬老の日は笑顔の日

浜北西高校一年

渡辺 真佑

夏休みバンジージャンプあたごがわ

浜松東高校一年

小嶋 隼典

宿題に追われる夏はもうこない

浜松修学舎高校三年

鈴木 莉李花

自転車でごうごうと割く夏の風

西遠女子学園高校一年

伊藤 晏珠

君がためダリアを手折る帰り道

浜名高校三年

川嶋 爽蘭

奨励賞

〈中学生の部〉

入学式ピンクの風に背を押され

浜松修学舎中学校三年

松本 拓隼

思い出を刻み込むため日記買う

与進中学校三年

甲斐雅也

帰り道合格祝う花吹雪

与進中学校三年

中川 晴

ぶらんこの揺れて思い出なつかしき

与進中学校三年

山本 奈桜

風が吹きモデル気分だ花ふぶき

北浜東部中学校一年

齋藤 唯菜

きみはバラそれにくらべてぼくはこけ

西濃女子学園中学校一年

永田 理紗

問いかけを飲みこむ闇と黙る月

丸塚中学校三年

山本 悠真

甘い物ほどよく溶ける春の夢

丸塚中学校二年

落合 梨奈

台風だ雨のにおいが草のよう

丸塚中学校二年

渡辺 ゆか

ひりひりと思い出語る日焼け痕

篠原中学校一年

杉山 凜

〈小学生の部〉

いわし雲空いっぱい群つくる

篠原小学校五年

佐野 未歩

流れ星家族みんなで願ったよ

笠井小学校五年

石田 美友

モットーはゆっくり動くカタツムリ

神久呂小学校八年

岸名 志紘

友だちと水鉄砲の乱打戦

中ノ町小学校六年

加藤 鷲翔

秋の雲みあげるたびににらめっこ

和田東小学校六年

古澤 梓実

スパイクのどろ落す今日せみが鳴く

積志小学校五年

石田 大翔

星月夜草の中からねずみの子

新居小学校五年

渡邊 美代

滝の声うねうねと鰻かな

有玉小学校六年

栗田 真乃介

ひるねあと風をあやつり竹とんぼ

神久呂小学校一年

北嶋 青空

バスのまど虹にいい事願ってる

蒲小学校六年

長谷川 令奈

満開の笑顔の中で散る桜

西濃女子学園中学校一年

米山 凜

母の日に私が描いたカーネーション

北浜東部中学校三年

鈴木 英玲菜

雨上がりふわりと香るきんもくせい

北浜東部中学校三年

戸田 凜

枯木立縫いつつ登る古城かな

笠井中学校三年

砂田 祥真

人混みの中で輝くあの浴衣

与進中学校一年

鈴木 茉莉江

冷たさが体つきぬけかき氷

丸塚中学校一年

橋爪 杏奈

夏休み四倍速で過ぎていく

積志中学校三年

平尾 彩乃

あつすぎて夏がきらいになりそうだ

与進中学校三年

清水 ありさ

毛糸編む祖母の姿にほっとする

丸塚中学校二年

稲本 紗和

入院中部屋から見える桐の花

笠井中学校三年

小川 諒人

夏祭お面で見えない君の顔

与進小学校六年

三室 千星

そうこの奥仲良しだったうきわあり

豊西小学校五年

田中 四季

風鈴をチラツと見ると猫もみた

和田小学校六年

佐々木 菜南

ぎらぎらとあついたいようとけるぼく

笠井小学校二年

佐藤 守

かき氷小さな富士山いただきます

与進小学校六年

竹山 奈那

台風が大きくなってよってくる

県居小学校四年

大崎 凜太郎

アメリカ人留学生の初火花

積志小学校五年

平野 ローズ

うなどんのだれかけごはんもう一杯

神久呂小学校四年

鈴木 颯太

白鷺がえものをねらう水にらみ

和田東小学校六年

渡辺 玄人

ふねのうえねころんでみるなつのほし

与進小学校六年

伊藤 良太